



PRESS RELEASE

本リリースは豊島区からも配信されます

東京芸術祭2018 ラインアップ紹介 記者会見 【ご報告】

- ▶ 宮城聰総合ディレクターによる東京芸術祭2018 コンセプト説明
- ▶ 5つの事業のディレクターによるラインアップ紹介を実施

東京芸術祭組織委員会（委員長：福地茂雄）は、2018年9月1日（土）から12月9日（日）の100日間、豊島区池袋エリアを中心に東京芸術祭を開催いたします。東京芸術祭2018の開催に先駆け、6月27日（水）14時より東京芸術劇場において、宮城聰総合ディレクター含むプランニングチームメンバーによるラインアップ紹介 記者会見を執り行いました。

東京芸術祭2018によせて - 宮城聰総合ディレクター

近年、オリンピックが「スポーツと文化の祭典」である、ということがしきりに言われるようになりました。それは近代オリンピック理念の原点に帰ろう、ということでもあり、またスポーツだけに偏りすぎるとオリンピックが国威発揚の道具にされやすくなり「平和でより良い世界の構築（オリンピック憲章第1章第1条）」にはつながらない、という危機感のためでもあるでしょう。

けれど、20世紀前半のオリンピックがそうであったような、国の代表選手としての芸術家が作品の出来を競ってメダルを争う「芸術競技」のありかたでは、スポーツと相補いあうべき芸術の役割が果たせるとは思えません。

では、何が芸術の役割なのでしょう。

近代オリンピックにおけるスポーツとは、世界各地から異なるバックグラウンドを持った選手たちが集まり、敢えてモノサシをひとつにして「より速く」「より高く」「より美しく」と競うことです。多様な人々が敢えてひとつのモノサシで競いあうことによって信頼関係が生まれることを狙っています。

いっぽう、逆に「こういう『速さ』もあるんじゃないか」「これもまた『高さ』を感じさせるなあ」「こんな『美しさ』もあったのか」とモノサシを増やしてゆくのが芸術です。

「Olympic Games」の「ゲーム」には「競技」と「遊戯」の両方の意味があるように、「こんなモノサシもありなんだ！」と多様性を楽しむ仕掛けとしての芸術が、スポーツとともにオリンピックを形成する、ということなら納得できますね。

近年のグローバリズムの浸透によって、人間たちはつねひごろにおいても「ひとつのモノサシに適應する」ことを迫られています。それができなければこれからの世界を生きのびられないんだ、という脅迫に晒されています。こんな時代には、「モノサシを増やす楽しみ」「モノサシが増えるオドロキ」を共有する「芸術」という人類の知恵が、いっそう活躍しなければならないだろうと僕は考えています。

宮城聰（みやぎ さとし）

1959年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京芸術祭総合ディレクター。東アジア文化都市2019豊島舞台芸術部門総合ディレクター。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。2017年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『女王メディア』『マハーバーラタ』『パール・ギュント』など。2006～2017年APAFアジア舞台芸術祭（現アジア舞台芸術人材育成部門）プロデューサー。2004年第3回朝日舞台芸術賞受賞。2005年第2回アサヒビル芸術賞受賞。2018年平成29年度第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。



宮城総合ディレクター

左から、根本・杉田・河合・長島・宮城・横山・内藤
多田は欠席(敬称略)

<本リリースに関するお問合せ>

アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団） 広報担当：都築、圓城寺
TEL：03-6256-8432 E-mail：press@artscouncil-tokyo.jp

<東京芸術祭に関するお問合せ> 東京芸術祭組織委員会事務局

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1国立能楽堂内 公益社団法人 国際演劇協会日本センター一気付
TEL：03-6388-0119 FAX：03-3478-7218 E-mail：info@tokyo-festival.jp

5つの事業 ラインアップ紹介

東京芸術祭は2018年度より、総合ディレクターと参加事業のディレクターが協働する「プランニングチーム」によって展開されます。本会見では、5つの事業のディレクターによるラインアップ紹介を行いました。

●東京芸術祭 直轄事業

2018年10月18日(木)～11月4日(日) 予定 - ディレクター 横山義志

イタリアを代表する演出家コルセッティが池袋でオーディションを開催し、全出演者を自分の目で選んでつくる『野外劇 三文オペラ』を池袋西口公園で上演。フランスからは、ジャンヌトーの大ヒット作『ガラスの動物園』、ステレオプティック『ダーク・サーカス』を上演。振付家メルラン・ニヤカムは、静岡の子どもたちが善悪を超えた子どもの宇宙を描く『空は翼によって測られる』、人生経験豊かな日本の女性たちから希望を紡ぎ出す『アダルト版 ユメミルチカラ』の2作品で参加。国際コラボレーションとして、三重・第七劇場と台北・Shakespeare's Wild Sisters Groupによるコラボレーション『珈琲時光』を上演。いずれも低価格で観覧できるプログラムとなる。

●フェスティバル/トーキョー18

2018年10月13日(土)～11月18日(日) - ディレクター 長島 確/共同ディレクター 河合千佳

同時代の舞台作品の魅力を多角的に紹介し、舞台芸術の新たな可能性を追求する国際舞台芸術祭。11回目の開催となる本年度は、現在進行形のアジアの舞台芸術やアートを紹介するアジアシリーズで、タイ人振付家ピチュ・クランチェンによる野外公演をはじめ、バングラデシュやカンボジアの作品など、F/Tでしか出会えない作品を上演。また、F/Tとともに新たな境地を開拓し続けるマレビトの会など、日本の先鋭的なアーティストの作品を上演する。新ディレクターによるプログラムとして、シンポジウムなどの開催にも力を入れる。

●芸劇オータムセレクション

2018年9月1日(土)～11月25日(日) - ディレクター 内藤美奈子(東京芸術劇場 制作担当課長)

東京芸術劇場の主催事業の中でも国際色豊かで、新たな表現の扉を開く4演目が東京芸術祭に参加。東京芸術劇場の芸術監督でもある野田秀樹が演出・出演する『霞作 桜の森の満開の下』、イキウメの前川知大による「水木しげるの世界」をモチーフとした書下ろし新作『ゲゲゲの先生へ』、コンテンポラリー・サーカスのパフォーマーであるカミーユ・ボワテルの新作プロジェクトと、国内外のアーティストによる注目の作品が集結。池袋西口公園では、オーストラリアのカンパニー バック・トゥ・バック・シアターによる『スモール・メタル・オブジェクト』を上演する。

●としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム

2018年9月1日(土)～12月9日(日) - ディレクター 根本晴美(あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)制作統括 チーフプロデューサー) / 杉田隼人(公益財団法人としま未来文化財団 みらい文化課 プランクション事業企画担当)

2019年「東アジア文化都市」国内都市に決定した豊島区は、区が誇る芸術・文化の魅力を世界に向けて発信し、まち全体が舞台の、誰もが主役になれる劇場都市「国際アート・カルチャー都市」を目指している。今年度は、野外パフォーマンス『大田楽 いけぶくろ絵巻』のほかにも、伝統芸能事業を拡大。「伝統芸能@南池袋公園事業」として、野村万蔵の構成・演出による伝統芸能公演『日本の芸能 三番叟 ～中世から江戸へ～』、表現豊かな民俗舞踊が集結する『ひとはおどる一日本の民俗舞踊一』を実施する。あうるすぽっとでは、浪曲師の玉川奈々福による新企画『奈々福の、惚れるひと。』、映像ディレクター芳賀薫とコンドルズの近藤良平による「ダンスで演劇『右回りの男』」、ロンドンパラリンピックでもパフォーマーとして活躍したダンスアーティスト南村千里による新作『光の音：影の音』を上演。第30回を迎える「池袋演劇祭」も実施する。

●APAF-アジア舞台芸術人材育成部門

2018年10月15日(月)～11月12日(月) - ディレクター 多田淳之介 ※記者会見は欠席

アジア地域から若手アーティストを選抜し、国際共同制作や国境を越えたネットワークづくりのキーとなる人材の育成を目指す。「国際共同クリエイション」では前年度の国際共同ワークショップから選ばれたインドネシアの演出家ユスティアンシャ・ルスmanaによる『Beautiful Trauma』をスケールアップして上演。「国際共同制作ワークショップ」では、ディレクターの多田が課した“Violent”をテーマに、参加者たちがオリジナル3作品を仕上げ発表する。未来の舞台芸術界を担う新しい才能を発掘・育成するためのプログラム「アートキャンプ」では、10日間の滞在の中で、参加者たちがレクチャーや観劇、ディスカッションなどで実践力を高める。いずれも一部を一般公開予定(無料)。

東京芸術祭2018 メインビジュアル発表



アートディレクターには昨年度も華やかなビジュアルを展開したデザイナー村上雅士氏を引き続き起用し、昨年度からコンセプトはそのままにカラーリングを更新。東京芸術祭ブランドを定着させつつも、新鮮味のあるビジュアルが完成。池袋の街を彩る東京芸術祭2018メインビジュアルにぜひご注目ください。



●東京芸術祭ロゴ コンセプト

シンボルマークの形は舞台を照らすスポットライトを表現。舞台芸術の象徴としてスポットライトを丸と線だけで構成している。ロゴそのものが光であり、照らされたその先に東京芸術祭がある。芸術によって世の中を明るく照らす存在になるように、という想いが込められている。

本記者会見の配布資料の一部は、下記URLよりダウンロード可能です。

《 <http://tokyo-festival.jp/2017/news/1501/> 》

東京芸術祭とは

東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指した、都市型総合芸術祭です。東京の芸術文化の魅力を分かり易く見せると同時に東京における芸術文化の創造力を高めることを目指しています。中長期的には社会課題の解決や人づくり、都市づくり、そしてグローバル化への対応を視野にいれて取り組んでいきます。

開催概要

名称：東京芸術祭2018（英称：Tokyo Festival 2018）

会期：2018（平成30）年9月1日（土）～12月9日（日）計100日間

会場：東京芸術劇場、あうるすぽっと（豊島区立舞台芸術交流センター）、池袋西口公園、南池袋公園 ほか

プログラム数：30プログラム ※予定

参加事業：フェスティバル/トーキョー18、芸劇オータムセレクション、

としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム、APAF-アジア舞台芸術人材育成部門

主催：東京芸術祭組織委員会

【アーツカウンシル東京・東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバル/トーキョー実行委員会】



東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre



公益財団法人
としま未来文化財団
Toshima Mirai Cultural Foundation



助成：平成30年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業（豊島区国際アート・カルチャー都市推進事業）



＜本リリースに関するお問合せ＞

アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団） 広報担当：都築、圓城寺
TEL：03-6256-8432 E-mail：press@artscouncil-tokyo.jp

＜東京芸術祭に関するお問合せ＞

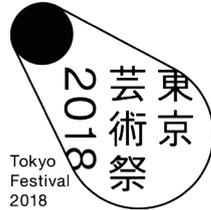
東京芸術祭組織委員会事務局
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1 国立能楽堂内
公益社団法人 国際演劇協会日本センター 一気付
TEL：03-6388-0119 FAX：03-3478-7218 E-mail：info@tokyo-festival.jp

PRESS RELEASE
2018.6.27

TokyoTokyo
Road to
FESTIVAL



ARTS COUNCIL TOKYO



東京芸術祭 2018

ラインアップ

2018.9.1 (土) ~ 12.9 (日) 100日間

東京芸術祭は、東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指した、都市型総合芸術祭です。東京の芸術文化の魅力を分かり易く見せると同時に東京における芸術文化の創造力を高めることを目指し、東京 2020 オリンピック・パラリンピック、さらにはその先まで東京に世界から人が集まり、東京の魅力を満喫できることを目指す芸術祭として、2016年にスタートしました。中長期的には社会課題の解決や人づくり、都市づくり、そしてグローバル化への対応を視野にいれて取り組んでいきます。

東京芸術祭は2018年より、宮城聡総合ディレクターと参加事業のディレクターが協働する「プランニングチーム」によって展開されます。

『開く』『極める』『つながる』の3つをプログラムの柱として、フェスティバル/トーキョー18、芸術オータムセレクション、としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム、APAF-アジア舞台芸術人材育成部門などを前年より引き続き据えながら、東京芸術祭 直轄事業も加え、一層幅広いプログラムで実施いたします。

tokyo-festival.jp

- ▶ 本リリース・記者会見に関するお問い合わせ
アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団） 広報担当：都築、圓城寺
Tel：03-6256-8432 E-mail：press@artscouncil-tokyo.jp
- ▶ 東京芸術祭に関するお問い合わせ
東京芸術祭組織委員会事務局
Tel：03-6388-0119 Fax：03-3478-7218 E-mail：info@tokyo-festival.jp

目次

P1 東京芸術祭 2018 によせて (東京芸術祭 総合ディレクター 宮城 聡)

P2~3 プランニングチーム メンバー

P4~12 ▶ラインアップ紹介

P4~5 東京芸術祭 直轄事業

P6~8 フェスティバル / トーキョー 18

P9 芸劇オータムセレクション

P10~11 としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム

P12 APAF-アジア舞台芸術人材育成部門

P13 東京芸術祭 2018 メインビジュアル

P14 開催概要 / WEB・SNS / お問い合わせ

東京芸術祭2018 によせて

東京芸術祭 総合ディレクター 宮城 聡

近年、オリンピックが「スポーツと文化の祭典」である、ということがしきりに言われるようになりました。それは近代オリンピック理念の原点に帰ろう、ということでもあり、またスポーツだけに偏りすぎるとオリンピックが国威発揚の道具にされやすくなり「平和でより良い世界の構築（オリンピック憲章第1章第1条）」にはつながらない、という危機感のためでもあるでしょう。

けれど、20世紀前半のオリンピックがそうであったような、国の代表選手としての芸術家が作品の出来を競ってメダルを争う「芸術競技」のありかたでは、スポーツと相補いあうべき芸術の役割が果たせるとは思えません。

では、何が芸術の役割なのでしょう。

近代オリンピックにおけるスポーツとは、世界各地から異なるバックグラウンドを持った選手たちが集まり、敢えてモノサシをひとつにして「より速く」「より高く」「より美しく」と競うことです。多様な人々が敢えてひとつのモノサシで競いあうことによって信頼関係が生まれることを狙っています。

いっぽう、逆に「こういう『速さ』もあるんじゃないか」「これもまた『高さ』を感じさせるなあ」「こんな『美しさ』もあったのか」とモノサシを増やしてゆくのが芸術です。

「Olympic Games」の「ゲーム」には「競技」と「遊戯」の両方の意味があるように、「こんなモノサシもありなんだ！」と多様性を楽しむ仕掛けとしての芸術が、スポーツとともにオリンピックを形成する、ということなら納得できますね。

近年のグローバリズムの浸透によって、人間たちはつねひろるにおいても「ひとつのモノサシに適應する」ことを迫られています。それができなければこれからの世界を生きのびられないんだ、という脅迫に晒されています。こんな時代には、「モノサシを増やす楽しみ」「モノサシが増えるオドロキ」を共有する“芸術”という人類の知恵が、いっそう活躍しなければならないだろうと僕は考えています。

東京芸術祭 総合ディレクター

宮城 聡 (みやぎ・さとし)



撮影：新良太

1959年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京芸術祭総合ディレクター。東アジア文化都市2019豊島舞台芸術部門総合ディレクター。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。2017年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『王女メデア』『マハーバーラタ』『ペール・ギュント』など。2006～2017年APAFアジア舞台芸術祭（現アジア舞台芸術人材育成部門）プロデューサー。2004年第3回朝日舞台芸術賞受賞。2005年第2回アサヒビール芸術賞受賞。2018年、平成29年度第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

プランニングチーム メンバー

東京芸術祭は2018年より、宮城聡総合ディレクターと参加事業のディレクターが協働する「プランニングチーム」によって展開されます。



撮影：新良太

総合ディレクター 宮城 聡 (みやぎ・さとし)

[プロフィールはP1掲載]



Photo : Kazuyuki Matsumoto

直轄事業 ディレクター 横山 義志 (よこやま・よしじ)

1977年千葉市生まれ。中学・高校・大学と東京に通学。2000年に渡仏し、2008年にパリ第10大学演劇科で博士号を取得。専門は西洋演技理論史。2007年からSPAC-静岡県舞台芸術センター制作部、2009年から同文芸部に勤務。主に海外招聘プログラムを担当し、二十数カ国を視察。14年からアジア・プロデューサーズ・プラットフォーム (APP) メンバー。2016年、アジア・センター・フェロシップにより東南アジア三カ国視察のち、アジア・カルチュラル・カウンシル (ACC) グランティーターとしてニューヨークに滞在し、アジアの同時代的舞台芸術について考える。学習院大学・静岡県立大学非常勤講師。論文に「アリストテレスの演技論 非音楽劇の理論的起源」、翻訳にジョエル・ボムラ『時の商人』など。舞台芸術制作者オープンネットワーク (ON-PAM) 理事、政策提言調査室担当。



フェスティバル/トーキョー ディレクター 長島 確 (ながしま・かく)

1969年東京生まれ。立教大学文学部フランス文学科卒。大学院在学中、ベケットの後期散文作品を研究・翻訳するかたわら、字幕オペレーター、上演台本の翻訳者として演劇に関わる。その後、日本におけるドラマトゥルクの草分けとして、さまざまな演出家や振付家の作品に参加。近年はアートプロジェクトにも積極的に関わる。参加した主な劇場作品に『アトミック・サバイバー』(阿部初美演出、TIF2007)、『4.48 サイコシス』(飴屋法水演出、F/T09秋)、『フィガロの結婚』(菅尾友演出、日生オペラ2012)、『効率学のスズメ』(新国立劇場、ジョン・マグラー演出)、『DOUBLE TOMORROW』(ファビアン・プリオヴィル演出、演劇集団円)ほか。主な劇場外での作品・プロジェクトに「アトレウス家」シリーズ、『長島確のつくりかた研究所』(ともに東京アートポイント計画)、『ザ・ワールド』(大橋可也&ダンサーズ)、『←(やじるし)』(さいたまトリエンナーレ2016)など。東京藝術大学音楽環境創造科特別招聘教授。



フェスティバル/トーキョー 共同ディレクター 河合 千佳 (かわい・ちか)

武蔵野美術大学卒。劇団制作として、新作公演、国内ツアー、海外共同製作を担当。企画製作会社勤務、フリーランスを経て、2007年、NPO法人アートネットワーク・ジャパン (ANJ) 入社、川崎市アートセンター準備室に配属。「芸術を創造し、発信する劇場」のコンセプトのもと、新作クリエイション、海外招聘、若手アーティスト支援プログラムの設計を担当。また同時に、開館から5年間にわたり、劇場の制度設計や管理運営業務にも携わる。2012年、フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局に配属。日本を含むアジアの若手アーティストを対象とした公募プログラムや、海外共同製作作品を担当。また公演制作に加え、事務局運営担当として、行政および協力企業とのパートナーシップ構築、ファンドレイズ業務にも従事。2015年度より副ディレクター。2018年度より共同ディレクター。日本大学芸術学部演劇学科非常勤講師 (2017年～)。

プランニングチーム メンバー



Photo : Kazuyuki Matsumoto

芸術オータムセレクション ディレクター

内藤美奈子 (ないとう・みなこ) — 東京芸術劇場 制作担当課長

プロデューサー。東京大学文学部卒業。1985年よりパルコ劇場にて、1998年よりホリプロ・ファクトリー部にて、2010年より東京芸術劇場にて、演劇・ダンス・ミュージカル・国際共同制作等の企画制作、海外公演の招聘などに従事。手がけた主な作品に、「THE BEE English Version」(野田秀樹作・演出)世界10都市ツアー、「トロイアの女たち」(蜷川幸雄演出/東京芸術劇場・テルアピブ カメリ劇場共同制作)、「おのれナポレオン」(三谷幸喜作・演出)、「リチャード三世」(シルヴィウ・ブルカレーテ演出)、「ラブ・レターズ」(青井陽治演出)、ミュージカル「ファンタスティックス」(宮本亜門演出)、「タデウシュ・カントール & Cricot 2」(くたばれ芸術家)、「私は二度と戻らない」、ブロードウェイ・ミュージカル「CHICAGO」、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー公演など。桜美林大学非常勤講師。



Photo : Kazuyuki Matsumoto

としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム ディレクター

根本晴美 (ねもと・はるみ)

— あうるすぽっと (豊島区立舞台芸術交流センター) 制作統括 チーフプロデューサー

早稲田大学卒業後、劇団四季に社員として入社。翌年ニューヨーク大学大学院パフォーマンススタディーズ専攻へ留学。帰国後は、こどもの城に併設されていた青山劇場・青山円形劇場事業本部で、演劇・舞踊や子どものための舞台芸術の企画制作、またローザンヌ国際舞踊コンクール東京開催事務局、海外共同制作ミュージカルなどに携わる。出産・子育てを経て、1996年世田谷パブリックシアター開設準備室に入室。日本初の創造発信型公共劇場のプロデューサーとして、演劇、ダンス、子どもプロジェクト、ワークショップの企画制作、地方公共劇場との連携事業などを19年間手掛け、劇場のステイタスの確立に貢献。2016年4月より現職。



Photo : Kazuyuki Matsumoto

としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム ディレクター

杉田隼人 (すぎた・はやと)

— 公益財団法人としま未来文化財団 みらい文化課 プランセクション事業企画担当

民間企業、公立ホール、ヨコハマトリエンナーレ 2011 PR 隊「ヨコトリキャラバンズ」事務局等での制作を経て、2012年より公益財団法人に在職。現在までに「としま能の会」「民俗芸能 in としま」「ジュニア・アーツ・アカデミー狂言コース」「伝統芸能 in 自由学園明日日館『獅子の祝祭』」などを担当。2016年東京芸術祭参加作品「大田楽 いけぶくろ絵巻」を企画制作。南池袋公園を中心に、池袋の街中で上演、コスプレイヤーとのコラボレーションも話題となった。伝統芸能分野における新たな観客層の創出に努めている。



Photo : Kazuyuki Matsumoto

APAF ディレクター

多田淳之介 (ただ・じゅんのすけ)

1976年生まれ。演出家。東京デスロック主宰。富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督。古典から現代戯曲、ダンス、パフォーマンス作品までアクチュアルに作品を立ち上げる。「地域密着、拠点日本」を標榜し、全国各地の劇場・芸術家との地域での芸術プログラムの開発・実践や演劇を専門としない人との創作、ワークショップも積極的に行い、演劇の持つ対話力・協働力を広く伝える。海外共同製作も数多く手がけ、特に韓国、東南アジアとの共作は多い。主宰する東京デスロックは2009年以降東京公演を休止。2013年に東京復帰公演を行うも現在は2020年東京オリンピック終了まで再休止している。2014年韓国の第50回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。2010年キラリふじみ芸術監督に公立劇場演劇部門の芸術監督として国内史上最年少で就任。高松市アートディレクター。四国学院大学非常勤講師。セゾン文化財団シニアフェロー対象アーティスト。

▶ ラインアップ

東京芸術祭 直轄事業

2018.10.18 (木) ~ 11.4 (日) ※予定 ディレクター - 横山義志

宮城総合ディレクターが選んだ『開く』『極める』『つながる』を実践する国内外のアーティストによる計6作品を上演。



◀ ジョルジオ・バルベリオ・コルセッティ

▼ オーディションの様子



『野外劇 三文オペラ』

作：ベルトルト・ブレヒト

音楽：クルト・ヴァイル

訳：大岡 淳

演出：ジョルジオ・バルベリオ・コルセッティ

音楽監督：原田敬子

衣裳デザイン：澤田石和寛

総合ディレクター：

宮城 聡 (演出家、SPAC- 静岡県舞台芸術センター芸術総監督)

イタリアを代表する演出家コルセッティが池袋でオーディションを開催し、全出演者を自分の目で選んで作る野外劇をワンコインで。ロンドンの盗賊団の親玉メッキーは乞食商会社長の娘ポーリーと馬小屋で結婚式を挙げ、追っ手を逃れてポーリーに後を託すが…。金融恐慌とナチス台頭の時代に一世を風靡した痛快風刺音楽劇が池袋西口公園に登場。

会場：池袋西口公園 日程：10月18日(木)～28日(日) ※予定



© Mammor Benranou

『ガラスの動物園』

作：テネシー・ウィリアムズ

演出・舞台美術：ダニエル・ジャンヌトール

母子家庭の家計を支える息子トムは理想を押しつける母と内向的な妹ローラを重荷に感じ、ローラに同僚を紹介するが…。悪夢のようになつかしい家族の物語をはかない美しさの舞台美術で上演した大ヒット作。

会場：東京芸術劇場 プレイハウス

日程：10月27日(土)～28日(日) ※予定



© Christophe Raynaud de Lage

『ダーク・サーカス』

原作：ペフ

出演：ステレオプティク

「不幸になりにいらいっしょい！」空中ブランコ乗りは手を滑らせ、猛獣使いは猛獣に追われる…。あぶないサーカス団がブラックユーモアたっぷりに描かれる、ファミリー向け超ローテク・ライブアートパフォーマンス。

会場：東京芸術劇場 シアターウエスト

日程：10月27日(土)～29日(月) ※予定



▶ラインアップ 東京芸術祭 直轄事業



撮影：猪熊康夫

『空は翼によって測られる』

振付・演出：メルラン・ニヤカム

カメルーン出身・パリ在住の振付家メルラン・ニヤカムとの魔術的な出会いを経た静岡の中高生が、天使も悪魔も超えた子どもたちの宇宙を描く。

会場：あうるすぽっと

日程：11月3日(土)～4日(日)※予定



オーディションの様子▲

『アダルト版 ユメミルチカラ』

振付・演出・出演：メルラン・ニヤカム

振付家メルラン・ニヤカムが日本の子どもたちと作ったアフロ・ジャパニーズ・コンテンポラリーダンス作品『タカセの夢/ユメミルチカラ』の再クリエーションを通じて、人生経験豊かな女性ダンサーたちから希望を紡ぎ出す。

会場：東京芸術劇場 シアターイースト

日程：11月2日(金)～4日(日)※予定



第七劇場 × Shakespeare's Wild Sisters Group
日台国際共同プロジェクト Notes Exchange vol.3
『珈琲時光』

原作：侯 孝賢『珈琲時光』（映画）

演出：王 嘉明・鳴海康平

三重と台北の劇団によるコラボレーション三年目の新作。台湾の侯孝賢監督による小津安二郎へのオマージュ『珈琲時光』にインスピレーションを得て、今を生きる世代の日本人と台湾人の出会いを描く。

会場：東京芸術劇場 シアターウエスト 日程：10月24日(水)～25日(木)※予定

▶今後の最新情報は、東京芸術祭 Web サイト及び SNS にて発信致します。

Web サイト - tokyo-festival.jpTwitter - [@tokyo_festival](https://twitter.com/tokyo_festival)Facebook - [@tokyofestivalsince2016](https://www.facebook.com/tokyofestivalsince2016)

▶ ラインアップ

フェスティバル/トーキョー 18

2018.10.13 (土)～11.18 (日)

ディレクター - 長島 確 / 共同ディレクター - 河合千佳

人と都市から始まる舞台芸術祭



フェスティバル/トーキョー(以下F/T)は同時代の舞台作品の魅力を多角的に紹介し、舞台芸術の新たな可能性を追求する舞台芸術祭。11回目の開催となる本年は、2018年(平成30年)10月13日(土)～11月18日(日)までの37日間、国内外のアーティストが集結。F/Tでしか出会えない国際共同製作プログラムをはじめ、まちなかで舞台芸術を鑑賞できる作品、アジアのアーティストの新しい波に注目した作品、市民参加イベントなど、多彩なプロジェクトを展開する。

会場: 東京芸術劇場、あうるすぽっと、南池袋公園 ほか
【チケット発売日: 9月初旬】

アジアシリーズ vol.5 参加アーティスト&カンパニー



ピチェ・クランチェン [タイ] - ダンサー・振付家

タイ古典仮面舞踊劇コーンの第一人者チャイヨット・クンマネーのもとでコーンの訓練を16歳より開始。バンコクのチュラロンコン大学で美術・応用美術の学士号を取得後、ダンサー・振付家として舞台芸術を探究。世界の各地で様々な舞台芸術プロジェクトに参加。フランス政府から芸術文化勲章シュバリエ章(2012)、アジアン・カルチュラル・カウンシルからジョン・D・ロックフェラー三世賞(2014)等を受賞。F/T17オープニング『Toky Toki Saru (トキトキサル)』に引き続き、2回目のF/T参加となる。

公演概要 ▶ 会場: 南池袋公園 日程: 10月13日(土)～14日(日)



シヨブノ・ドル [バングラデシュ]

2001年、代表のジャヒド・リボンにより首都ダッカに創立された劇団。語りと歌を交えたベンガル地方の伝統的な演劇手法を用いながら現代的なテーマを扱い、これまでにタゴールの『チットランゴダ』や『郵便局』など17作品を発表している。代表作である『30世紀』は、インドで開催されたアジア最大級の演劇祭である「第17回インド国際演劇祭(17th Bharat Rang Mahotsav)」(2015)にて上演。その他、国内外の様々な演劇祭に参加している。



ローモールピッチ・リシー [カンボジア]

- アーティスト、「Bonn Phum」ディレクター

王立プノンベン大学メディア・コミュニケーション学部卒業。BBCメディア・アクション・カンボジアでのディレクターを経て、2014年にPlerngKobを創設。失われてしまったカンボジアの伝統を現代に接続させることを目的としたポンブン(ピレッジ・フェスティバル)を主催している。第5回目の開催となった今年は、3日間で約140,000人が来場した。別名、Yoki Cöcöとしても活動。

▶ラインアップ フェスティバル/トーキョー 18

まちなかパフォーマンスシリーズ 参加アーティスト&カンパニー



©Koji Fukunaga

L PACK.

小田桐奨と中嶋哲矢によるユニット。共に1984年生まれ、静岡文化芸術大学空間造形学科卒。アート、デザイン、建築、民藝などの思考や技術を横断しながら、最小限の道具と現地の素材を臨機応変に組み合わせた「コーヒーのある風景」をきっかけに、まちの要素の一部となることを目指す。各地のプロジェクトやレジデンスプログラム、エキシビションに参加。

坂田ゆかり (演出) × 稲継美保 (出演) × 田中教順 (音楽)

演出家である坂田ゆかり、俳優の稲継美保、ミュージシャンの田中教順による共同創作。



坂田ゆかり - 演出家

1987年東京生まれ。東京藝術大学音楽環境創造科卒業後、全国の劇場で舞台技術スタッフとして研鑽を積む。2014年、アルカサバ・シアター(パレスチナ)との共同創作『羅生門 | 藪の中』を演出(F/T14)。近年は展覧会という形式に演劇の技術や考え方を応用させる実験を重ねている。建築家ホルヘ・マルティンとの長期プロジェクト『Dear Gullivers』は、第16回ヴェネチア建築ビエンナーレ(2018)のスペイン館に参加。既存の物語と協働を手段として、地域社会への芸術的介入を試みる。



Photo: Akinali Nishimura

稲継美保 - 俳優

1987年兵庫県生まれ。東京藝術大学在学中より演劇を始める。舞台を中心にフリーランスで活動中。これまでに、坂田ゆかり、岡崎藝術座、サンプル、チェルフィッチュ、ミクニヤナイハラプロジェクト、パストリオ、オフィスマウンテンなどの作品に出演している。現在、東京藝術大学音楽環境創造科にて、学生に演技を教え、ともに演劇作品を創作している。



Photo: Kouki Ueta

田中教順 - ミュージシャン

「抱きたいリズム」をモットーに世界を旅するリズムアディクテッドな大学職員。菊地成孔のdCprG等で活動後、現在ミャンマーやスリランカ等の東南アジアのリズム研究を行う。アメリカン・スピリットCM音楽やドラマ「卒業バカメンタリー」オリジナル・サウンドトラック等でドラマ及びパーカッション演奏、リズムアレンジを担当。その他には自身のユニット「未同定」やラテン・ジャズバンドSepteto Bunga Tropisなどで好きに演奏している。



Photo: Takaki Sudo

福田 毅 - 俳優

中野成樹+フランケンズ所属。劇団公演のほか『From the Sea』(F/T14)など、客演も多数。2009年よりソロ・パフォーマンスを開始。近年に、Twitterに書きとめ寓話を構成した『鷹』、同作の改訂版『かも』(共に2015)。まちなかパフォーマンスシリーズ(F/T16、17)では、カフェや劇場のロビーを会場に上演を実施。2018年3月にはショーケース公演『Step into my home』(急な坂スタジオ・ジャパンファウンデーションシドニー)にて海外初進出。



森 栄喜 - 写真家

1976年石川県生まれ。2014年『intimacy』で、第39回木村伊兵衛写真賞を受賞。『tokyo boy alone』(2011)、『Family Regained』(2017)などの作品集のほか、同性婚をテーマにしたパフォーマンス『Wedding Politics』(2013-2016)がある。F/T17では新しい家族の形を提示した映像作品『Family Regained: The Picnic』を池袋西口公園、豊島区本庁舎で上映した。

▶ラインアップ フェスティバル/トーキョー 18



代表：松田正隆

マレビトの会

2003年、舞台芸術の可能性を模索する集団として設立。被爆都市である広島・長崎をテーマとした「ヒロシマーナガサキシリーズ」(2009-2010)、震災と原発事故以後のメディアと社会の関係性に焦点を当てた『アンティゴネーへの旅の記録とその上演』(2012)、複数の戯曲から都市を多面的に描く『長崎を上演する』(2013-2016)、『福島を上演する』(2016-)などを上演。演劇における上演形式を大きく変化させながらも、未曾有の出来事を経験した都市をテーマに、歴史に回収されえぬものを探り、描き続けている。



Photo: Nima Soleimanpour

ナシーム・スレイマンプール [イラン] - 劇作家・パフォーマー

1981年生まれ。兵役を拒否したために、2012年までイランからの出国を禁止された経験を持つ。自身はイランにいなながらも、作品に旅をさせるスタイルを生み出した2011年の作品『白いウサギ、赤いウサギ』は多くの受賞歴を持ち、これまでに25の異なる言語に翻訳され、その上演回数は1000を超えている。その他の主な執筆作に『ブラインド・ハムレット』(2013)、『ブランク』(2015)。現在、ベルリン在住。



Photo: amemiyayukitaka

山本卓卓 - 劇作家・演出家

思春期に吸収した映画・文学・音楽・美術などを芸術的素養に、加速度的に倫理観が変貌する、現代情報社会をビビッドに反映した劇世界を構築する。近年は、マレーシア、タイ、インド、中国、アメリカ、シンガポールで公演や国際共同制作なども行ない、活動の場を海外にも広げている。『少女X』でBangkok Theatre Festival 2014 最優秀脚本賞と最優秀作品賞を受賞。『その夜と友達』で第62回岸田國士戯曲賞最終候補作ノミネート。

主催：フェスティバル/トーキョー実行委員会
豊島区/公益財団法人としま未来文化財団/ NPO 法人アートネットワーク・ジャパン、
アーツカウンシル東京・東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

平成30年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業（豊島区国際アート・カルチャー都市推進事業）

フェスティバル/トーキョー 18 Web & SNS

Web サイト - www.festival-tokyo.jp/

Twitter - @festivaltokyo

Facebook - @FestivalTokyo

▶ ラインアップ

芸劇オータムセレクション

東京芸術劇場

Tokyo Metropolitan Theatre

2018.9.1 (土) ~ 11.25 (日) ディレクター - 内藤美奈子 (東京芸術劇場 制作担当課長)

東京芸術劇場の主催事業の中でも国際色豊かで、新たな表現の扉を開く4演目が東京芸術祭に参加。



NODA・MAP共催『贗作 桜の森の満開の下』

作・演出・出演：野田秀樹

作家・坂口安吾の「桜の森の満開の下」と「夜長姫と耳男」を主な下敷きとして1989年に書き下ろされた壮大な戯曲が、NODA・MAP公演として甦る。東京公演を皮切りに、フランス・パリ、大阪と北九州にて公演を行い、再び東京にて凱旋公演を行う。

会場：東京芸術劇場 プレイハウス

日程：9月1日(土)～12日(水)、11月3日(土・祝)～25日(日)

【チケット発売日：7月28日(土)】

▼左から、前川知大・佐々木蔵之介・松雪泰子・白石加代子



『ゲゲゲの先生へ』

原案：水木しげる 脚本・演出：前川知大

現代日本演劇を牽引し、現実の中の異界を描き続けるイクウメの前川知大による書下ろし新作。「水木しげるの世界」をモチーフに佐々木蔵之介、松雪泰子、白石加代子など個性豊かな実力派キャストで贈る。

会場：東京芸術劇場 プレイハウス 日程：10月8日(月・祝)～21日(日)

【チケット発売日：8月4日(土)】

日本・フランス国際共同制作
「MA一間」プロジェクト

演出・振付・出演：カミーユ・ボワテル



OLIVIER CHAMBRIAL

フランス現代サーカスの鬼才、カミーユ・ボワテルの新作。日本とフランス、国際共同制作によりプロジェクトが進行中で、今回は日本の伝統楽器「笙」との異色コラボレーション等、日本人アーティストやクリエイターも参加が予定されている。

会場：東京芸術劇場 シアターイースト 日程：9月27日(木)～30日(日)※予定

【後援：在日フランス大使館／

アンスティチュ・フランセパリ本部】

【協力：アンスティチュ・フランセ東京】

日仏交流160周年
160^e Anniversaire
des relations
franco-japonaisesバック・トゥ・バック・シアター
『スモール・メタル・オブジェクト』

演出：ブルース・グラッドウィン

人通りの激しい都会の中で精巧で秀逸に展開する、知的障害を持つとされている6人の俳優を中心としたオーストラリアの劇団によるサイトスペシフィック演劇。観客はそれぞれヘッドホンを付け、雑踏の中のどこかで演じられている極めて私的なドラマに立ち会う。

会場：池袋西口公園 日程：10月19日(金)～30日(火)※予定

【助成：オーストラリア政府、

オーストラリア now スポンサー】



Jeff Busby

東京芸術劇場 Web サイト - www.geigeki.jp

東京芸術劇場 Twitter - @geigeki_info

▶ ラインアップ

としま国際アート・カルチャー都市 発信プログラム



国際アート・カルチャー都市としま

2018.9.1 (土) ~ 12.9 (日)

ディレクター - 根本晴美 (あうるすぽっと (豊島区立舞台芸術交流センター) 制作統括 チーフプロデューサー)
- 杉田隼人 (公益財団法人としま未来文化財団 みらい文化課 プランセクション事業企画担当)

2019年「東アジア文化都市」国内都市に決定した豊島区は、区が誇る芸術・文化の魅力を世界に向けて発信し、まち全体が舞台の、誰もが主役になれる劇場都市「国際アート・カルチャー都市」を目指している。

伝統芸能@南池袋公園事業

南池袋公園を舞台に日本の伝統芸能を楽しむ2日間。野村万蔵の構成・演出による伝統芸能公演『日本の芸能 三番叟 ~中世から江戸へ~』と、北から南まで、全国各地の民俗舞踊が集結する“踊りの祭典”『ひとはおどる-日本の民俗舞踊-』を上演。

会場：南池袋公園 特設舞台

日程：9月23日(日)~24日(月・祝)



© 前島写真店

伝統芸能@南池袋公園事業

『日本の芸能 三番叟 ~中世から江戸へ~』

構成・演出・出演：野村万蔵
出演：猿若清三郎 ほか

狂言師 野村万蔵が構成・演出を手掛ける伝統芸能公演。中世の日本で神事芸能として発展した「三番叟」(出演：野村万蔵)と、江戸時代に大衆の芸能に派生した歌舞伎舞踊の長唄「操り三番叟」(出演：猿若清三郎)、二つの三番叟を通して神祕の芸能の歴史をたどる。

日程：9月23日(日)



金津流獅子舞

伝統芸能@南池袋公園事業

『ひとはおどる-日本の民俗舞踊-』

出演：アイヌ舞踊、西馬音内盆踊り、長崎獅子舞、阿波踊り、エイサー等の民俗舞踊団体

全国各地域に根差した表現豊かな民俗舞踊が集結する「踊りの祭典」。地元豊島区の団体も参加。踊り手と観客が一緒に踊る“輪踊り”、“ひとはおどる”をテーマにトークコーナーを設け民俗舞踊の魅力を伝える。

日程：9月24日(月・祝)



© 赤坂久美

『大田楽 いけぶくる絵巻』

構成・演出：野村万蔵

池袋の街を舞台に、100名を超える田楽法師たちがいにしへの旋律ののって軽やかに舞い躍る「大田楽 いけぶくる絵巻」。色とりどりの衣裳、華やかな音楽、躍動的な舞が織り成す大田楽が、まちゆく人を絵巻の世界へ巻き込む野外パフォーマンス。

会場：南池袋公園 日程：10月20日(土)

【観覧無料・申込不要】

▶ラインアップ としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム



第29回大賞受賞 ラビット番長

第30回池袋演劇祭

9月の1ヶ月間に豊島区及び近隣で公演する劇団が参加し、100名の公募による一般審査員が、大賞など10本をこえる賞を決める、地域密着型のユニークな演劇祭。

会場：シアターグリーン他17会場

日程：9月1日(土)～30日(日)

※チケットなどは各劇団へ直接問い合わせください。

[主催：池袋演劇祭実行委員会]

▼左から、柳家喬太郎・玉川奈々福・神田松之丞



『奈々福の、惚れるひと。』

出演：柳家喬太郎(落語)、玉川奈々福(浪曲)、神田松之丞(講談)

浪曲師の玉川奈々福が日本の伝統話芸の分野で“惚れるひと”を紹介する新企画。1回目の今年は、落語の重鎮と講談のホープ、2人の人気者を招き入れる。“奈々福の惚れどころ”を聞くと、話芸がもっと楽しくなること間違いなし。

会場：あうるすぽっと 日程：10月10日(水)

【チケット発売日：8月25日(土)】

[主催：あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区]

▼左から、千葉雅子・矢崎 広・近藤良平



撮影：HARU

ダンスで演劇『右回りの男』

構成・上演台本・演出：芳賀薫 振付・演出：近藤良平
出演：千葉雅子、矢崎 広、近藤良平

3人の「こだわりすぎる人たち」のこだわりすぎる日常を、ダンスの身体言語で俳優の身体を通して描く。ダンスと演劇のいいとこどり、今秋、新ジャンルが誕生する。

会場：あうるすぽっと 日程：11月22日(木)～25日(日)

【チケット発売日：10月初旬予定】

[主催：あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区]

▼南村千里・伊藤キム
振子びじん・aokid

撮影：島崎るでいー

By YukiSakanaka

『光の音：影の音』

アーティスティックディレクター：南村千里
出演：伊藤キム、振子びじん、aokid ほか

ロンドンパラリンピックでもパフォーマーとして活躍し、世界で活躍しているダンスアーティストであり、ろう者でもある南村千里による新作。きこえない彼女にとっての光の音、影の音をテーマに3人の男性ダンサーがその世界に挑む。

会場：あうるすぽっと 日程：12月7日(金)～9日(日)

【チケット発売日：10月中旬予定】

[主催：あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区]

平成30年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業(豊島区国際アート・カルチャー都市推進事業)

国際アート・カルチャー都市としま(豊島区公式Webサイト) - www.city.toshima.lg.jp/000/1804161543.html

としま未来文化財団 Web サイト - www.toshima-mirai.jp

※7月2日10時より www.toshima-mirai.or.jp

あうるすぽっと Web サイト - www.owlspot.jp



▶ ラインアップ

APAFーアジア舞台芸術人材育成部門

2018.10.15 (月) ～ 11.12 (月) ディレクター - 多田淳之介

若手アーティストの可能性を開拓するとともに、国境を越えたネットワークをはぐくむプラットフォームを目指す人材育成プログラムを実施。



APAF2017

APAF2018 国際共同クリエーション 『Beautiful Trauma』(仮)

演出：ユスティアンシャ・ルスmana

前年の国際共同ワークショップで制作された小作品より 1 作品をフルサイズの作品に発展させ上演するプログラム。「化粧」というテーマのもと制作された、インドネシアの演出家ユスティアンシャ・ルスmanaによる『Beautiful Trauma』を上演。

会場：東京芸術劇場 シアターウエスト 日程：11月10日(土)～11日(日)
【入場無料・要申込】



APAF2017

APAF2018 国際共同制作ワークショップ 上演会・ラップアップ

東南アジア、日本、台湾など
アジアから選抜された若手アーティストたちが参加

アジアの若手アーティストが一堂に集い交流しながら、決められたテーマの小作品を共同制作するワークショップ。今年は APAF ディレクター・多田淳之介が設定したテーマ「Violent」をもとに制作された 15 分間のオリジナル 3 作品を上演する。

会場：東京芸術劇場 シアターウエスト 日程：11月9日(金)～11日(日)
【入場無料・要申込】



APAF2017

APAF2018 アートキャンプ

東南アジア、日本ほか
アジアの舞台芸術の若手アーティスト・スタッフたちが参加

参加者たちが東京芸術祭開催中 10 日間滞在し、観劇・レクチャー・フィールドワーク・スピーチ・ディスカッションを通じて、国際共同制作への理解と交流を深め、未来の舞台芸術界に寄与する人材、活動を育成するプログラム。滞在中は一般公開のフォーラムを、最終日には一般公開のプレゼンテーションを実施。

会場：東京芸術劇場 ほか 日程：11月12日(月) ほか
【入場無料・要申込】

主催：アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）／豊島区＊
共催：国際交流基金アジアセンター

平成 30 年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業（豊島区国際アート・カルチャー都市推進事業）＊

*APAF ワークショップ、アートキャンプに対して



東京芸術祭 2018 メインビジュアル

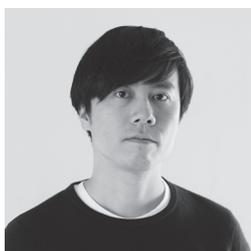
アートディレクターには昨年度も華やかなビジュアルを展開したデザイナー村上雅士氏を引き続き起用し、昨年度からコンセプトはそのままだにカラーリングを更新。東京芸術祭ブランドを定着させつつも、新鮮味のあるビジュアルが完成。池袋の街を彩る東京芸術祭2018メインビジュアルにぜひご注目ください。



東京芸術祭ロゴ コンセプト

シンボルマークの形は舞台を照らすスポットライトを表現。舞台芸術の象徴としてスポットライトを丸と線だけで構成している。ロゴそのものが光であり、照らされたその先に東京芸術祭がある。芸術によって世の中を明るく照らす存在になるように、という想いが込められている。

アートディレクター 村上雅士 (むらかみ・まさし)



1982年神奈川県生まれ。東京藝術大学美術学部デザイン科卒業、同大学大学院美術研究科修士課程修了。2012年m²を設立。グラフィックデザインを主軸にブランディング、広告、パッケージなどを手がける。主な仕事に麒麟レモン90周年リブランディングデザイン、高木酒造「十四代 Int'l」のパッケージデザインなど。また、文字を主体にしたアートワークの展覧会なども積極的に行う。東京TDC賞、英D&AD賞など国内外で受賞多数。

www.emuni.co.jp



開催概要

名称：東京芸術祭 2018 (英称：Tokyo Festival 2018)
 会期：2018 (平成 30) 年 9 月 1 日 (土) ~ 12 月 9 日 (日) 100 日間
 会場：東京芸術劇場、あうるすぽっと (豊島区立舞台芸術交流センター)、池袋西口公園、南池袋公園 ほか
 参加事業：東京芸術祭 直轄事業、フェスティバル/トーキョー 18、芸術オータムセレクション、
 としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム、APAF-アジア舞台芸術人材育成部門

プログラム数：30 プログラム ※予定

主催：東京芸術祭組織委員会
 [アーツカウンシル東京・東京芸術劇場 (公益財団法人東京都歴史文化財団)、豊島区、
 公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバル/トーキョー実行委員会]



東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre



公益財団法人
としま未来文化財団
Toshima Mirai Cultural Foundation



平成 30 年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業 (豊島区国際アート・カルチャー都市推進事業)



東京芸術祭組織委員会

■委員長

福地茂雄 公益財団法人新国立劇場運営財団顧問

■委員

市村作知雄 フェスティバル/トーキョー実行委員会副委員長

齋藤 明 豊島区文化工務部長

高萩 宏 東京芸術劇場 副館長

東澤 昭 公益財団法人としま未来文化財団常務理事・事務局長

樋渡幸生 東京都生活文化局 文化振興部長

三好勝則 アーツカウンシル東京 機構長

■構成団体

アーツカウンシル東京 (公益財団法人東京都歴史文化財団)

東京芸術劇場 (公益財団法人東京都歴史文化財団)

東京都

豊島区

公益財団法人としま未来文化財団

フェスティバル/トーキョー実行委員会

東京芸術祭に関する最新情報を随時配信中

| Web サイト <http://tokyo-festival.jp/> ▶本日、東京芸術祭 2018 ティザーサイト リリース

| Facebook @tokyofestivalsince2016 Twitter @tokyo_festival Instagram @tokyo_festival LINE @tokyo-festival

[報道関係お問い合わせ先]

▶本プレスリリースの PDF データ、掲載画像などは、下記 URL よりダウンロードいただけます。※ 6 月 27 日 (水) 17 時頃、更新予定。

<http://tokyo-festival.jp/2017/news/1501> (東京芸術祭 Web サイト)

※画像のご掲載、東京芸術祭や作品に関する情報を掲載いただける折には、下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。
 ※上記リンク先がない素材、情報に関してはお問い合わせください。

▶本リリース・記者会見に関するお問い合わせ

アーツカウンシル東京 (公益財団法人東京都歴史文化財団) 広報担当：都築、圓城寺

TEL : 03-6256-8432 E-mail : press@artscouncil-tokyo.jp

▶東京芸術祭に関するお問い合わせ

東京芸術祭組織委員会事務局

TEL : 03-6388-0119 FAX : 03-3478-7218 E-mail : info@tokyo-festival.jp

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1 国立能楽堂内 公益社団法人 国際演劇協会日本センター 1 気付